

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 令和5年度第1回会議
開催日時	令和5年5月31日（水）午後3時30分から17時15分まで
開催場所	イングビル第3会議室
出席者	委員：鈴木委員、都築委員、長崎委員、廣瀬委員、多々良委員、漆原委員 事務局：吉田課長、森主係長、亀田主事、川野主事、沼上文化財保護専門員
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「登録文化財制度」について (2) 文化財保存・活用計画 取組状況 (3) 文化財行政のあり方 (4) 文化財保存・活用計画策定委員の選出について 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 下野谷遺跡の保存・活用について (2) 文化財事業実施報告（埋蔵文化財、その他の文化財事業等） 4 その他 5 閉会
会議資料の名称	資料1 登録文化財制度について 資料2 西東京市文化財保存・活用計画 取組状況 資料3 文化財保存活用計画の改定に向けて 資料4 西東京市文化財保存・活用計画策定委員会実施要領（案） 資料5 下野谷遺跡整備内容などについて 資料6 埋蔵文化財調査一覧・地点 資料7 文化財事業一覧（まちなか先生など）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
協議事項 (1) 「登録文化財制度」について ○鈴木会長：事務局から説明をお願いする。 ○事務局：（資料1に基づき説明） ○鈴木会長：文言の修正案のうち、登録後の位置づけの部分に関しては、「所有者の意向を確かめる」など、教育委員会として積極的な関与を表現する	

方がよいのではないか。

- 事務局：これまでの審議により、制度設計上、指定文化財へのつながりを持つものと整理している一方で、所有者ごとの検討を支援する必要があり、悪い意味ではないがダブルスタンダードのような状況になっている。運用の中でコミュニケーションをしっかりとっていくこととなるが、このあたりの表現については種々検討の上、現状の表記とさせていただいた。
- 都築委員：練馬区では、まずは登録文化財になった後に指定文化財に移行していくと整理をしているが、以前の審議会でも言ったとおり、西東京市の登録文化財制度としては登録を経ずにいきなり指定文化財になるという選択肢があってもよいと思っているが、そのあたりの検討状況はどうか。
- 鈴木会長：緊急性の観点から、ステップを踏んでいる時間がないという場合もありえるため、そのような選択肢があってもよいかと考える。
- 都築委員：国の登録文化財でも、所有者が亡くなり、相続などの事情からやむなく登録解除となって保存できなかった事例がある。そういう事例は西東京市においても発生する可能性があるため、市が買い上げる覚悟が必要なのだと思う。
- 鈴木会長：相続税の猶予などの税制面の優遇などもあるが、所有者にとって大きなメリットになっているとは考えにくいので、買い上げなどの対応ができればとても良いことだと思う。
- しかし、ここまで審議を重ねてきて、ある程度の形ができてきたと思うので、まずは制度としてスタートさせることが大事かと思う。
- その上で、おまつりや古典芸能などをどうするのか、といった問題も個人的に気になるので、今後の各論のテーマにしたい。
- 鈴木会長：今後の流れについて事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局：本日までにご審議いただいた事項で、制度の骨子及びそこから浮き上がる個別のテーマについて、ご審議いただいたこととなる。
- 今後、この制度を根拠づけるために条例等の作成に移行したいと思っている。ご審議いただいた事項は、制度の根幹部分にあたるため条例として、運用面については規則として作成をしてまいりたい。
- しかしながら、制度の趣旨に鑑みても実際の制度運用面で選択肢が複数出てくるのが想定されるため、そうした点について、各論として引き続き審議会のご知見をいただき、作り上げていきたいと考えている。
- 鈴木会長：ただいまの説明のとおり進めてもらうことでよいか。
(異議なし)

(2) 文化財保存・活用計画 取組状況

- 鈴木会長：事務局から説明をお願いします。
- 事務局：昨年度同様、後日、事務局から各委員へコメント依頼の連絡を行い、各委員がコメントを提出する形で審議会としての評価を取りまとめさせていただきます。
- 鈴木会長：昨年度同様、各委員がコメントを提出する形で審議会としての評価を

取りまとめたいので、よろしく願います。

(3) 文化財行政のあり方

(4) 文化財保存・活用計画策定委員の選出について

- 鈴木会長：事務局から説明をお願いします。
- 事務局：（資料3、資料4に基づき説明）
- 多々良委員：計画策定に向けてとられるアンケートについては、誰に向けたもので、どんな背景で質問をするのか、冒頭に記して行政としてのねらいを明確にしたもので実施いただきたい。
- 鈴木会長：文化財にしたしみをってもらえる計画になることが必要。そうした点から取り組んでいただきたい。
- 都築委員：新しい計画は、文化庁が策定を求めている地域計画とは別のものということか。
- 事務局：別物と考えている。新計画は、10か年計画を想定しており、策定後5年で中間見直しを行う。そのときに東京都の大綱に沿って見直しを図ることを考えている。
- 鈴木会長：地域の共同体の地盤をどのようにグループ化するか。例えば、西東京市は神社がしっかり残っていることが特徴に挙げられると思うので、宗教的な意味から切り離しが可能であれば、神社を単位としてグループ化することもよいのではないかと考える。
- 鈴木会長：また、参考資料の前回策定時のアンケート問1で、市内の文化財について問うものがあるが、もう少し具体化した表現の方が回答しやすさにつながると考える。
- 漆原委員：貨幣、刀剣など歴史的な遺物の固有名詞は入れた方がよいと考える。また、「伝承」という言葉も入っていた方がよいと考える。
- 廣瀬委員：今、アンケートをとるのであれば冒頭の居住地や性別を問う設問は再考すべき。
- 鈴木会長：居住する町名までを問うているが、西東京市のような都市部の場合には、町ごとの差異は多くないと考えられるため、あらたにアンケートをとる場合は設問からおとしてもよいかもしれない。
- 都築委員：地盤という点では、電車の最寄り駅で考えてみるのもよいかと考える。
- 多々良委員：下野谷遺跡に関する設問をもっと増やすべきだ。
- 長崎委員：この数年で整備が進んだことで下野谷遺跡の景観も大きく変わった。そういった点から、訪問時期ごとに回答者が下野谷遺跡にどのような印象を抱いたのかを整理しないとピンボケしたものとなるのではないか。
- 廣瀬委員：玉川上水、小金井さくらも西東京市の国指定の史跡、名勝なので、しっかりと認識調査してほしい。
- 長崎委員：過去のアンケートとの比較など、設問によって回答の取りまとめ結果がどのようなものになるのか、想定した上で質問を設定した方がよい。

- 事務局：多くのご意見、ご指摘をいただき、だいぶイメージができてきた。これらを踏まえ、策定委員会に提案していきたい。
- 事務局：策定委員会に、当審議会から1名選出いただきたく、自薦・他薦によりご推挙いただきたい。
- 鈴木会長：自薦・他薦の意見がある委員はいるか。
- 都築委員：鈴木会長を推薦させていただきたい。
- 鈴木会長：他に自薦・他薦がなければ、私でよいか。
(異議なし)
- 鈴木会長：それでは、当審議会の推薦により、私の方で策定委員会の委員を務めさせていただきます。

報告事項

(1) 下野谷遺跡の保存・活用について

- 鈴木会長：事務局から報告をお願いします。
- 事務局：(資料5に基づき報告)
- 多々良委員：防犯カメラの設置について、地元の警察にもよく相談してみてください。
- 事務局：検討させていただく。
- 都築委員：練馬区の栗原遺跡に昭和32年に復元した茅葺の竪穴住居があるが、これは、柱に亀裂などが見られていない。下野谷遺跡の竪穴式住居の柱の亀裂は、荷重による部分が多いのではないか。
- 事務局：工事完了後も監理業者などに状況を見てもらっており、建築木材に自然に発生する亀裂であると説明を受けている。安全性にはまったく問題ないことを大前提として、その亀裂がどのような原因によるものなのか、モニタリングをしていくこととしている。当然、荷重による部分もあるし、湿気や乾燥による部分もあろうかと考えている。ご紹介いただいた遺跡の事例なども勉強しながら、長く有効に活用していくための方策を勉強してまいりたい。

(2) 文化財事業実施報告

- 鈴木会長：事務局から報告をお願いします。
- 事務局：(資料6及び資料7に基づき報告)
- 長崎委員：人員が限られている中で対応が厳しい場面があることがわかったが、児童への説明などは、ボランティアの活用は検討しているのか。
- 事務局：学校との関係もあり、児童への説明については職員の対応が必要と考えている。他方、竪穴式住居の内部公開などは、ボランティアの活用の余地もあるかと考えられるため、検討してまいりたい。
- 都築委員：他の業務と兼ねられる取組があれば計画立ててやってみてほしい。
- 多々良委員：とても良い取り組みを実施されており、大変感銘を受けた。難しいこともあるかと思うが、もっとこれらの取り組みが広がってほしい。

○鈴木会長：実施事業は、企画としてはどれも重要で必要なものだと考えるが、人繰りの問題も解決しなければならない点として挙げておきたい。

4 その他

○鈴木会長：それでは、全体を通して何かあるか。

○事務局：本日で今期の審議会開催は最終回。2年間ありがとうございました。
次回は新委員により、9月までの間で開催を予定している。

○鈴木会長：以上をもって、令和5年度第1回会議を閉会する。